

各関係機関、団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察注意報（第6号）を下記のとおり発表したのを送付いたします。

令和3年度 病害虫発生予察注意報（第6号）

令和4年3月18日

愛媛県

病害虫名 ベと病

作物 たまねぎ

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 3月上中旬の定点調査では、過去4か年と比較すると発病株率は並であるが、発生圃場率は約2.6倍と高くなっている（表1）。
- (2) 3月上中旬の広域調査では、県全体の発生圃場率14.9%、発病株率0.57%であり、過去5か年と比較する発生圃場率は高くなっている。特に、東予及び南予地域では発生圃場率が高い（表2）。
- (3) 3月17日発表（高松地方气象台）の1か月予報では、気温および降水量はほぼ平年並とされているが、3月19～25日にかけて低気圧や前線および寒気の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があると予想されていることから、さらなる発生拡大が懸念される。

4 防除上の注意

- (1) 越年罹病株（一次伝染株）は、やや萎縮し葉身が湾曲する（写真1）。湿潤な気象条件下（気温15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生胞子が形成され、周辺に飛散し二次伝染を起こす（写真2）。分生胞子は広範囲に飛散するため、地域一体となって防除すると効果が高まる。
- (2) 圃場観察は丁寧に行い早期発見に努め、越年罹病株は直ちに抜き取り、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (4) 発病後では薬剤の防除効果が劣るので、早くから計画的に散布を実施する。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪いため、展着剤を必ず加用する。
- (5) 防除は降雨等の天候を考慮しながら7～10日間隔で行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション使用する。
- (6) 農薬の散布にあたっては農薬安全使用基準を順守し、周辺農作物への飛散防止対策を徹底する。

表1 定点圃場におけるべと病の発生調査結果

調査圃場数	発生圃場率(%)		発病株率(%)	
	R4.3	平均値	R4.3	平均値
6	50.0	19.6	1.7	1.6

- 1) 調査対象は越年罹病株および二次伝染株
- 2) 平均値: H30.3~R3.3(4か年)の平均

表2 広域調査におけるべと病の発生調査結果

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)		発病株率(%)	
			R4.3	平均値	R4.3	平均値
東予	60	14	23.3	8.4	0.57	0.18
中予	61	3	4.9	9.5	0.55	0.16
南予	20	4	20.0	9.5	0.67	3.00
県全体	141	21	14.9	9.1	0.57	0.64

- 1) 調査対象は越年罹病株および二次伝染株
- 2) 平均値: H29.3~R3.3(5か年)の平均



写真1 越年罹病株（一次伝染株）

やや萎縮し葉身が湾曲する



写真2 病斑上に形成された分生胞子

葉身表面に白色～灰褐色のカビが確認される